



おぐら
尾倉

校訓
自主
創造
協力



令和4年12月23日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞

豊かな心もち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

＜目指す生徒像＞

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

尾倉中「数学タイム」「学びタイム」を紹介します！

～「授業改善」と「補充学習」を関連付け、より効果的な取組を～

数学の補充学習の取組については、学校通信第270号でお知らせしたところです。今回は1・2年生の取組についても紹介します。子どもたちの「教え合い」「学び合い」の姿(=尾倉中の姿)が学力向上に結び付いていくと思います。

市内の多くの学校では、それぞれ、学力向上のための取組を進めています。しかし、学校(教師側)では、その取組が、生徒が直面している課題の解決につながるものになっているかという点から、常に検証することが大切です。課題の解決につながる効果的な取組を追究する上で大きな手がかりとなるのは、生徒のつまづきを分析することです。生徒が実際にどのようなところにつまづいているのか、なぜそこでつまづいているのかといったことを明らかにすれば、そのつまづきを解消する対策を考えること、つまり、授業をどのように構築していくかが容易になります。

尾倉中学校の生徒は、素直で、何事にも積極的に取り組める生徒が多いですこの補充学習は、複数の教員で生徒に関わり、生徒のつまづきを発見し、解決に導く取組の一つであるといえます。

ここでは、12月16日(金)に実施した「尾倉中 学びタイム」「数学タイム」について紹介します。

【3校時】1年1組 数学「数学タイム」:多目的室、問題集を使つての教え合い学習

→指導者:梶田先生、参観者:市教委授業づくり支援企画課 坪井先生、校長、教頭

【4校時】全学年「学びタイム」:前半…AIドリル、後半…数学問題集(3年生は自主学习)

※今回 AIドリルでは、全学年の学習定着度を確認するために、「正の数・負の数」「文字の式」の問題を宿題として配付しました。

尾倉中学校における補充的な学習(以下、「尾倉中学びタイム」「数学タイム」)における視点と配慮事項は以下のようになっています。

【数学タイム】の各学年の取組

- 【1年】学級単位での学習を行う。グループ編成による教えあい学習が中心となる。または、個人での自主学习とする。
- 【2年】学年単位での学習を行う。学年から、数学が苦手な生徒を4分の1ほど抽出し、少人数授業として抜き出し学習する(少人数クラス)。少人数クラスでは、問題集とは別に、基礎基本の問題プリントを作成し、生徒15人程度に対し、3～4名の教員で机間指導にあたる。他の生徒は自主学习形式で問題集に取り組ませる。
- 【3年】学年単位での学習を行う。問題集を自主学习用として活用する。入試を見据えて個人での自主学习を中心に行う。

【学びタイム】の取組

全学年 AIドリル(ドリルパーク)を開き自主学习を行う。1時間の授業を通して AIドリルで自主学习すると生徒の集中力がもたず、学習効果が上がらない恐れがあるので、前半20～25分をAIドリル、後半20～25分を数学問題集または自主学习として取り組む。

今後の見通し

- ① 3学期は、各月に数学タイム1時間、学びタイム1時間を確保して取り組む予定である。
- ② 来年度に向けて、数学の学力向上のための有効的な方法を職員間で検討する。小規模校であるので、学校全体での取組として計画する。また、単なるドリル学習にならないよう、数学の授業改善を並行して行う必要があると考える。



『個に応じた指導』の一層の充実 文部科学省 HP より

「補充的な学習」、「発展的な学習」を実施する際には、それぞれのねらいを明らかにし、扱う内容と学習指導要領に示される各教科等の目標や内容との関係を明確にして取り組むことが大切である。具体的には、「補充的な学習」を行う際には、様々な指導方法や指導体制の工夫・改善を進め、当該学年までに学習する内容の確実な定着を図ることが必要である。また、「発展的な学習」を行う際には、児童生徒の負担過重とならないように配慮するとともに、学習内容の理解を一層深め、広げるという観点から適切に導入することが期待される。

その際、学校が一体となって共通理解の下に進めるとともに、校長がリーダーシップを発揮して校内体制を整備することや教員間の情報共有を図ることなど、それぞれの役割分担を明確にすることが重要である。